
用語解説

あ行

青べか物語（あおべかものがたり）

大正 15 年から昭和 4 年の春まで浦安を舞台に作家・山本周五郎が書いた小説、当時の浦安の風景描写とともに、漁師町の間人模様が生き生きと綴られている。

A. P.（えーぴー）

荒川ペイル (Peil) の略、東京湾近くの霊雁島水位観測所において大潮で最も水面が低くなった時の水面の高さを 0m と設定し、これを基準とする高さのこと。東京湾やこれに注ぐ河川の工事の基準高さとして用いられている。

エリアマネジメント（えりあまねじめんと）

地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組み（国土交通省）

か行

海面埋立事業（かいめんうめたてじぎょう）

公有水面埋立法に基づいて免許を取り、海面を埋立し土地を生み出す事業のこと。浦安市では市街地の多くが海面埋立事業（昭和 40 年事業着手、55 年事業完了）によって生み出された。

河川管理者（かせんかんりしゃ）

川の治水・利水・環境整備の計画を立てたり、工事や維持管理を行う組織のこと。境川の河川管理者は千葉県。

河川管理用通路（かせんかんりようつうろ）

河川管理用通路は、河川巡視、水防活動や災害復旧工事のための通行のために河川の両岸に設ける通路。

かわまちづくり

地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に、市町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各々の取組みを連携することにより「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取組。（国土交通省「かわまちづくり支援実施要綱」より）

感潮区間（かんちょうくかん）

河川の水位や流速に海の潮汐が影響を与える区間。

管理水位（かんりすい）

水門の開閉の基準となる水位。

計画河床高（けいかくかしょうだか）

河川の整備計画で定める川底の高さ。

計画降雨量（けいかくこうりょう）

河川整備において想定した最大の降雨量。この規模の雨が降っても氾濫（はんらん）が発生しないように治水対策を計画する。

計画高潮位（けいかくこうちょうい）

想定される最大規模の台風の襲来等により高潮が発生したときの海面の上昇に、満潮位を足したものの、高潮対策施設の計画の基準とする。

計画高水位（けいかくこうすい）

計画高水流量が河川改修後の河道断面を流下するときに到達すると想定されている水位。

計画堤防高（けいかくていぼうだか）

河川整備計画において設定する堤防の高さ。（計画高水位に余裕高を加えたもの。感潮区間においては、計画高水位に余裕高を加えたものと計画高潮位に波高を加えたものの内大きい方の値。）

係船施設（けいせんしせつ）

船舶が離着岸し、貨客の積降し及び乗降を行うための施設。岸壁、係船杭、棧橋、浮棧橋、船揚場等がある。

公共棧橋（こうきょうさんばし）

国・地方公共団体が管理する棧橋。

さ行

最高高潮位（さいこうこうちょうい）

その場所における過去最高の潮位。

SUP（さっぷ）

スタンド・アップ・パドルボード（Stand Up Paddleboard）の略。ボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を進んでいく水上スポーツ。

シビックセンター（しびっくせんたー）

元町と中町の境にあつて、市役所、文化会館、中央図書館、健康センター、郷土博物館などが立地する猫実地区と、公共施設の立地にともない機能集積が進む東野地区をいう。特に、市役所、文化会館、中央図書館、健康センター、郷土博物館、消防庁舎が立地する地区をシビックセンターコア地区という。

社会資本整備総合交付金（しゃかいしほんせいびそうごうこうふきん）

地方公共団体等が行う社会資本の整備その他の取組を支援することにより、交通の安全の確保とその円滑化，経済基盤の強化，生活環境の保全，都市環境の改善及び国土の保全と開発並びに住生活の安定の確保及び向上を図ることを目的とした国から地方公共団体等への交付金。

浚渫（しゅんせつ）

水底をさらって土砂などを取り除くこと。

親水護岸（しんすいごがん）

人びとが水に親しみ楽しめるように工夫した護岸。

親水施設（しんすいしせつ）

人びとが水に親しみ楽しめるように工夫した施設。

地盤沈下（じばんちんか）

地盤が沈む現象のこと。浦安市の旧市街地では、昭和 30 年代ころまで工場等による地下水のくみ上げが原因で地盤沈下が発生。中町・新町の埋立地では、埋め立てた土壌が自重で圧縮されて沈下する圧密沈下が起こった。また、東日本大震災では、液状化による地盤沈下が起こった。

水門（すいもん）

河川または水路を横断する形で設けられる流水を制御するための構造物のうち河川堤防を分断する形で設置されるもの。河口水門は海岸堤防としての機能を合わせもつ。

ソフト整備（そふとせいび）

モノ作り以外の分野の整備。協議会や市民ボランティアなどの組織作り、イベント企画や情報発信などがある。ハード整備（施設や資機材の整備）の対語。

た行

高潮（たかしお）

強風や気圧低下によって海水面が異常に高まり、高波を伴って陸地に押し上げてくる現象のこと。

テラス（てらす）

フランス語 terrasse、英語 terrace。古フランス語で盛り土を意味する語に由来し、階段状の地形をテラスと呼ぶ。河川では、護岸の下部に設置された平らな部分（小段）はテラスと呼ぶ場合がある。

な行

内水氾濫（ないすいはんらん）

市街地などに降った雨の量が排水路や下水管の雨水処理能力を超えたり、雨で川の水位が上昇したりして、市街地などの水を川に排出することができなくなり、市街地などに水が溢れてしまうこと。

は行

ハード整備（はーどせいび）

施設や資機材の整備のこと。ソフト整備の対語。

排水機場（はいすいきじょう）

大雨などによる市街地や農地などへの水害を未然に防止するために雨水などを河川に強制的に排水するための施設や、河川の流れを水門によってせき止めた際に出口を失った水を送り出す施設。排水機場は、一般にポンプ場と吐出水槽や樋門などの付帯設備で構成される。

バリアフリー（ばりあふりー）

高齢者や障がい者が社会生活を送るうえで障壁となるものを取り除かれた状態。

パラペット（ぱらぺっと）

中フランス語の parapet “胸のもの”が語源とされ、転じて、“胸の高さ程度の壁”をパラペットと総称するようになった。河川では、擁壁の上のコンクリートの立ち上がりをパラペットと呼ぶ。

BOD（びーおーでいー）

Biochemical oxygen demand の略で日本語では生物化学的酸素要求量と言う。水中の有機物などの量を、その酸化分解のために微生物が必要とする酸素の量で表したもので、最も一般的な水質指標のひとつ。

べか船（べかぶね）

薄板で造った一人乗りの小舟。軽量で、艫ともに縛り付けた櫂かいでこぐ簡単な構造のもの。東京湾で海苔採集に用いた海苔べかはその典型。

防災広場（ぼうさいひろば）

災害があったときに役立つように作られた広場のこと。広く用いられている設置基準は無いが、地下貯水槽、かまどベンチ、マンホールトイレ、防災倉庫などを備え、一時避難や地区の防災拠点として位置図けている例が多い。

ボラード（ぼらーど）

ボラード（英語: bollard）は、岸壁に設置して船を繫留したり、道路や広場などに設置して自動車の進入を阻止したりする目的で設置される、地面から突き出した杭。

や行

矢板護岸（やいたごがん）

矢板で作られた護岸のこと。矢板とは掘削によってできる土壁が崩れないように押える為の土留板のこと。コンクリート製や鋼製のものがある。

ユニバーサルデザイン（ゆにばーさるでざいん）

ユニバーサルデザイン（Universal Design/UD）とは、文化・言語・国籍や年齢・性別などの違い、能力などにかかわらず、出来るだけ多くの人が利用できることを目指した建築（設備）・製品・情報などの設計（デザイン）のこと。

ら行

流域面積（りゅういきめんせき）

河川に降水（雨や雪）が流れ込む範囲を流域と言い、流域の面積を流域面積と言う。

境川修景整備検討会報告書

令和2年3月

発行 浦安市都市整備部道路整備課
〒279-8501 浦安市猫実一丁目1-1
TEL : 047-351-1111
Fax : 047-352-7996

<http://www.city.urayasu.chiba.jp>

調査・編集 公益財団法人 リバーフロント研究所

